

2023～	身体機能障害特論	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	齋木 しゅう子	

■授業のテーマ

身体機能の理解と身体機能障害による課題発見と研究

■授業の目的

リハビリテーションの理念を理解し、身体機能障害による生活機能の課題・問題を分析・考察する。

■授業の到達目標

- ①リハビリテーションの理念を説明できる。
- ②身体機能と運動について説明できる。
- ③身体機能障害の評価方法とその意義について説明できる。
- ④身体障害を呈する疾患の特徴と生活機能の課題・問題を分析し解説できる。

■授業の概要

運動機能は、移動や様々な日常の中で行われる動作や作業をするのに欠かせない機能ですが、病気やケガ、加齢により運動機能が障害されリハビリテーションの対象となります。医療・福祉サービスを含めて、リハビリテーションは対象者の「生活機能」の向上・維持を目指すことにあります。

この授業では、運動を行うための身体機能を理解し、その機能が破綻した病態・障害像について理解を深めます。身体機能の評価結果は多職種間で共有され、対象者の支援に必要な情報となり、その評価結果の意義や支援への活用について学びます。運動機能障害を呈する代表的な疾患について経過・予後、包括的リハビリテーションの介入から医療・保健・社会福祉の連携について理解を深めます。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	ノーマライゼーション、自立生活運動等からリハビリテーションの理念について解説し、合わせて医学モデルから社会モデルへの変遷についてまとめなさい。	【提出期限】 <input checked="" type="checkbox"/> 対面授業1週間前まで <input type="checkbox"/> 対面授業前日まで <input type="checkbox"/> その他 ()
課題 2 (事後課題)	提示した模擬症例について、疾患や病態をまとめICFにおける生活機能レベルの問題・課題について症例情報を分析し各情報の関連性をまとめ、症例に提供できる支援についてまとめます。	【提出期限】 <input type="checkbox"/> 対面授業後1ヶ月以内 <input checked="" type="checkbox"/> 受講年度の最終レポート受付日まで <input type="checkbox"/> その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

医学的リハビリテーションが、2度にわたる世界大戦によって発展したという歴史やノーマライゼーション、自立生活運動等リハビリテーションに関わる流れを理解してください。そして、国際障害分類や国際生活機能分類の概要をとらえ、身体機能に重きを置いた時代から生活に目を向け対象者を捉える視点に変化した背景を理解してください。

課題2 アドバイス

模擬症例の病態について調査し理解を深めます。症例情報についてICFのどこに入る内容か、検討し身体構造の問題が活動・参加にどう影響しているのか。またそこに、環境や個人の要因がどう関わっているか関連性を捉え、まとめてください。参考文献としてあげた書籍を読み活用してください。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	リハビリテーションとは	語源、成立過程	リハビリテーションの意味、歴史について学びます 教科書：A-1 参考図書2) 第1回スクーリング
2	ノーマライゼーション 自立生活運動	ノーマライゼーション 自立生活運動	ノーマライゼーション、自立生活運動について学びます。 教科書：参考図書2)で確認 第2回スクーリング
3	医療・保健・社会福祉と リハビリテーションの関係	医学的・職業的・社会的・教育的・地域リハビリテーション、地域包括ケアシステム	リハビリテーションの理解。医療と保健・社会福祉との連携について学びます。 教科書：A-2 第3回スクーリング
4	多職種連携-①	連携の必要性	連携の必要性和連携が有効に展開できるための要因について理解を深めます。 教科書：参考図書2)第3章 第3回スクーリング
5	多職種連携-②	専門職の理解	チームを構成する職種の専門性について理解します。 教科書：A8-13 第3回スクーリング
6	障害モデル(医学モデルと社会モデル)	ICIDH(医学モデル)とICF(社会モデル)	疾病構造と障害、ICIDHとICFの違いについて理解してください。 教科書：A-15 参考図書2)：第2章2-2 第2回スクーリング
7	障害受容	障害受容の過程	障害受容について学びます。 参考図書2)：第2章2-2
8	運動生理学	呼吸・循環・代謝	身体を動かすために必要な身体機能(呼吸、心臓、エネルギー生成)について理解します。 参考図書2)第4章 第4回スクーリング
9	廃用性症候群	拘縮、筋力低下	廃用によって生じる拘縮・筋力低下について理解します。 教科書：B1-2 第5回・6回スクーリング
10	運動麻痺、協調運動障害	麻痺、協調性	運動麻痺の状態、強調運動障害による病態について理解します。 教科書：B3、11 第5回スクーリング
11	評価-①	機能障害	機能障害の評価の意義を理解し、評価手段を理解します。 教科書：A-15 第7回スクーリング
12	評価-②	能力障害	能力障害の評価の意義を理解し、評価手段を理解します。 教科書：A-16 第7回スクーリング
13	脳血管障害の障害像	疾患の特性、二次障害	急性期～維持期へと各病期における障害像を理解する 教科書：C-1-2 第6回・8回スクーリング
14	脳性麻痺、重症心身障害者	疾患の特性、二次障害	脳性麻痺、重症心身障害者の障害像を理解します。 教科書：C-13 第6回・9回スクーリング
15	高齢者の特性	フレイル、サルコペニア	予防の視点から老年症候群を理解します。 教科書：B-12 第10回スクーリング

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安: 6 時間以上)

- ・「PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論」あるいは参考図書としてあげた「リハビリテーション概論のいろは」を利用し、スクーリングの授業内容について確認してください。また、リハビリ専門職の業務についてイメージできない場合は日本理学療法士協会の URL https://www.japanpt.or.jp/about_pt/therapy/tools/movie/#a2や、各専門職の団体が開設している HP、疾患については YouTube 等活用し障害像を理解してください。
- ・スクーリング初日の 1 週間前までに、事務室へ提出してください。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	リハビリテーションの理念、歴史について学びます	リモート or 対面
2	リハビリテーションの種類 障害のとらえ方: ICDH と ICF について学び模擬症例を通し障害との関連性を検討します	リモート or 対面
3	地域包括ケアと多職種連携についてチームの構成のあり方を検討します	リモート or 対面
4	運動生理学: 呼吸・循環機能・エネルギー代謝を理解し障害を有することでの問題・課題を検討します	リモート or 対面
5	関節機能障害、筋力低下、運動麻痺、協調運動障害の障害像を学びます	リモート or 対面
6	脳血管障害、骨折、パーキンソン症候群、脳性麻痺・重症心身障害者の実際を学びます	リモート or 対面
7	ADL、QOL 評価、運動能力の評価に関する評価の目的、結果の意味について各疾患の特性から評価結果の意義を学びます。	対面
8	脳血管障害の模擬症例の情報から ICF の活動・社会参加について検討し発表します。	対面
9	脳性麻痺・重症心身障害者の特性と模擬症例の情報から ICF の活動・社会参加について検討し発表します。	対面
10	高齢者の特性から ICF の活動・社会参加について検討し発表します。	対面

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安: 6 時間)

- ・疾患と障害を理解し、活動や参加におよぼす影響と、介入できる支援等についてまとめます。また、提示した模擬症例について、疾患や病態をまとめ ICF における生活機能レベルの問題・課題について症例情報を分析し各情報の関連性から説明する。

■評価の方法・基準

- ・課題 1 レポート (20%)、課題 2 レポート (20%)
- ・スクーリング (参加度40%、発表20%)

■参考文献 (*印=大学から送付される必読図書)

- *1) 椿原 彰夫編著『PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第4版』診断と治療社、2023年
- 2) 川手信行『リハビリテーション概論のいろは』南江堂、2022年
- 3) 澤村誠志監修『社会リハビリテーション論 第2版』三輪書店、2007年
- 4) 細田多穂監修『理学療法概論テキスト 改訂第3版』南江堂、2019年